



日本語 クライストチャーチ大聖堂へようこそ

礼拝の場所

年間50万人が礼拝し、建物の美しさを堪能し、そして、教えを分かち合うために、この大聖堂を訪れています。大勢の人が神を礼拝し、自らと他の者のために祈り、そして、神がイエス・キリストを通してあらわされた正義と愛と平和のキリスト教のメッセージを聞きに来ます。

注目の建築物

大聖堂はクライストチャーチの中心にあります。それは、この街は英国教会の植民地として発足し、当時の指導者たちが大聖堂を中心に置くことを望んだためです。建設は市が創立された14年後の1864年に始まりました。

ビジターセンター

ビジターセンターでは、大聖堂に関するより詳しい資料、絵はがき、記念品、書籍、洋服、限定のおみやげ品などを販売しています。

10分のビデオ「リビング・カセラル」は、ご要望があれば放映いたします。豊かな歴史と今日における大聖堂の様々な様子を色鮮やかに描いています。

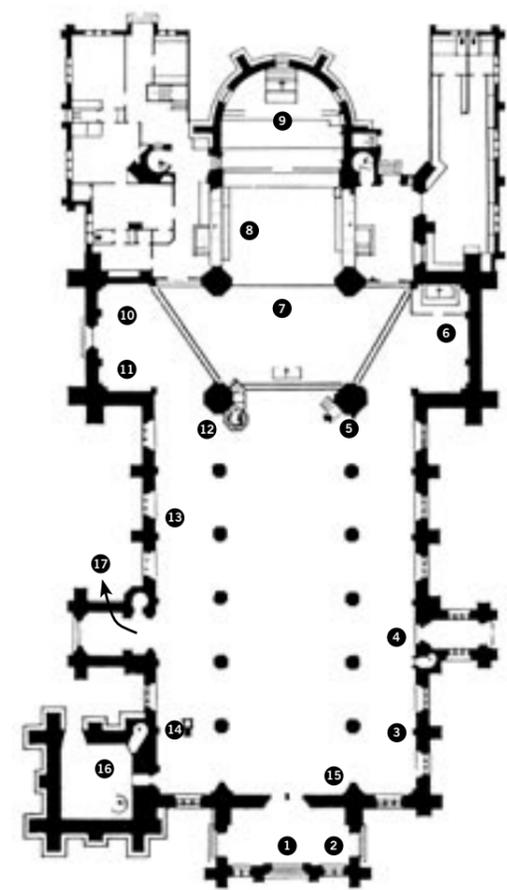
カセラル・カフェではコーヒー、紅茶、軽食をご用意しています。

礼拝にお気軽にご参加ください

日曜:	8:00am	聖餐式
	10:00am	合唱 / 聖餐式
	夕礼拝	
	(夏期7:00pm、冬期5:15pm)	
		晩祷合唱
		夜の祈り
		普段とは違う日曜日と
		大聖堂ジャズ (通年7:00pm)

聖餐式は毎日12:05pmに開かれます。木曜はマオリ語、土曜はトンガ語、水曜はケルト語にて、火曜は癒しのための祈りとなります。洗礼を受けたいすべてのキリスト教徒はこれらの礼拝式にて聖餐を受けられます。

晩祷合唱は、学校期間中の火曜と水曜5:15pmからは全聖歌隊により、金曜4:30pmからは少年合唱団員のみにより歌われます。

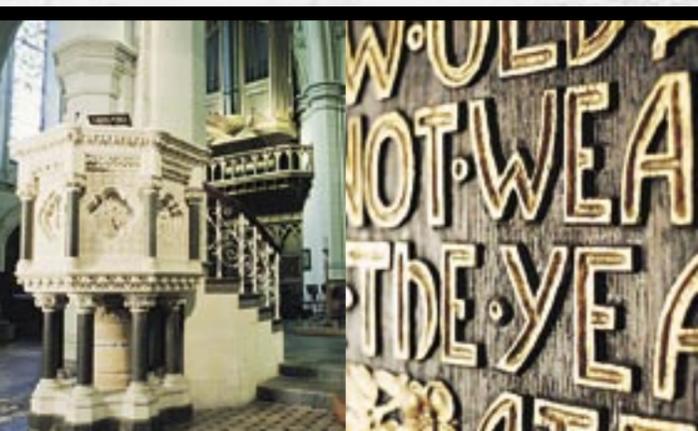


- 西玄関**: 4つのパネルが、英国のカンタベリー協会から始まり、ニュージーランド最初の市の指定を受けるまでのクライストチャーチ創立を物語っています。
- 4つ目のパネルの下は、クライストチャーチのすべての高度の測量に今でも使われている水準点です。それによると、クライストチャーチは、リトルトン港の平均海面より20,314フィートです。
- 奉納ロウソク台**: ユダヤ教とキリスト教のシンボルを掲げ、金箔をかぶせたスクリーンがついたこの品は、クエンティン・ロークによるデザインで、聖歌隊員ヘイミッシュ・ロークの記念品です。
- 大平洋礼拝堂**: 1971年にメラネシア (教区は現在全太平洋を包括) の最初の主教、ジョン・パタソンの殉教百年記念として、北玄関に配置されました。特に我々のパートナーであるポリネシア教区が、デザイン、タプ、マット、彫刻、カバ杯を乗せる祭壇を提供してくれました。
- オークの聖書台**: 最初の主教の妻、エミリー・ハーパー夫人によって寄贈されました。福音書記者ヨハネのシンボルであるワシをかたどったものです。1881年以来、ここで聖書が読まれてきました。
- 聖ミカエルと聖ヨハネの記念礼拝堂**: 1949年にベルナード・フレイバーク卿により開かれました。祭壇は地方執事カリントンによって、1916年にフランスで戦死した軍人の息子クリストファーを偲んで彫られたものです。彫刻を施した祭壇背後の飾壁はニュージーランド自生の鳥や草木をテーマにしています。上に掛けられているのは地元の連隊旗です。
- 内陣**: 1941年に完成したもので、最近改装されました。新しい可動式の聖歌隊席が加わり、小規模の礼拝式に対応するスペースもあります。描かれているのは、最初の入植者の4隻の船と主教の紋章です。
- オルガンのパイプ**: 内陣の上の北側にあり、主演奏台は反対側になります。記念礼拝堂隣のフロアにもう一カ所の演奏台があります。パイプオルガンは最初1882年に導入され、1977年に建て直されています。
- 高祭壇**: 1879年、イギリスからの旅の安全を感謝して、ジェームズ・アーヴィング博士によって寄贈されました。飾壁はクライストチャーチの木匠職人ジェームズ・ヴィヴィアンとロバート・ガーンゼイがフルヌイ川に架かっていた古橋のカウリ材を使って彫りました。(上から左) サミュエル・マースデン、ヘンリー・ウィリアムズ、タミハナ・テ・ラウパラハ; (上から右) セルウィン主教、ハーパー、パタソンという英国教会派の開拓者6人が描かれています。

- ハーパー像**: クライストチャーチ最初の主教、ヘンリー・ハーパーです。ウィクトリア女王お抱えの彫刻家、F.J.ウィリアムソンによって彫られました。
- スコットの窓**: 百周年記念の祝いとして、アーチボルド・スコットによって寄贈されました。カンタベリー地方の芸術家、ウィリアム・サットンによってデザインされ、ダニーデンのミラー・スタジオで作られました。変貌のキリスト、モーゼとエリヤ、そして、数種のニュージーランド自生のシダや樹木が描かれています。
- セルウィン記念説教壇**: 最初 (そして唯一) のニュージーランド主教の記念です。4つのパネルに描かれているのは、セルウィンがマオリ族の人々に説教する場面、ハーパー主教を迎える場面、ニュージーランド英国教会最初の教会憲章に署名する場面、そして、パタソン主教の主教聖別式の場面です。
- トックトゥック・パネル**: これらはキエキエ (亜麻)、革、リム材を用いた伝統的なマオリ族の芸術作品です。主教座聖堂参事会員マエ・タウアの指導で地元の囚人が亜麻を運びました。これらのパネルはクライストチャーチで5番目の主教、パイアットを記念するものです。
- 聖水盤**: ウェストミンスター寺院の執事が、1840年にアカロアに到着した自分の兄弟、オーウェン・スタンリー船長の記念としてデザインさせ、寄贈したものです。
- 薔薇の窓とモザイク・パネル**: これらは大聖堂の中央から一番よく見ることができます。窓の石細工は大聖堂ギルドにより、ステンドグラスは最初の主教の息子、レオナード・ハーパーにより贈呈されたものです。パネルはイタリア、ヴェニス製のサルヴィアティ社による作品で、キリストの6つの慈悲を表しています。
- 塔入口と歴史展示**: 塔に昇るためのチケットはビジターセンター (17) のショップで販売しています。特に、円柱、窓、オルガン、説教壇、聖水盤、鐘などに関してより詳しい情報をご希望の場合は、ショップにてその旨をお申し付け下さい。
- ビジターセンター**

Christ Church Cathedral
New Zealand

- > **セルウィン記念説教壇**はニュージーランドの最初の主教、ジョージ・オーガスタス・セルウィンに栄誉を与えるものです。彫刻を施したパネルは英国教会の設立を物語っています。
- >> **詩人ローレンス・ビニョンの詩句**。毎年、アンザックデーの礼拝で朗読される詩句は「時が経っても国のために命を失った人を忘れない」と約束しています。



大聖堂の祈り

入って来たすべての人と、通り過ぎたすべての人のために、今日、私たちの誇りではなく、御身の栄光を、この建物に語らせましょう。高さに御身の優雅さを、広さに御身の包容力を。この場所の美しさが我々に御身の愛を思い出させ、世界中のすべての人々のために、イエスの名において祈りましょう。アーメン。

皆様のご支援を必要としています

皆さんの協力なしでは大聖堂を維持することはできません。350名がボランティアで働いているものの、大聖堂の運営費は年間1,000,000ドルに上ります。政府から補助金はありません。寛大な寄付をどうかよろしくお願いいたします。寄付金箱は正面入口にございます。

「クライストチャーチ大聖堂の友」の案内はビジターセンターにございます。

大聖堂はアオテアロア、ニュージーランド、および、ポリネシアの英国教会 (テ・ハヒ・ミヒナレ・キ・アオテアロア・キ・ヌイ・ティレニ、キ・ンガ・モウテレ・オ・テ・モアナ・ヌイ・ア・キワ) に所属するものです。

このパンフレットをお持ちの方への特典

- ▶ ガイド付きツアー
- ▶ カメラ、または、ビデオ撮影の許可
- ▶ 塔内展示コーナーへの入場
- ▶ ビジターセンターショップにて10%割引でのお買い物
- ▶ 塔の入場券の割引

その他:

- ▶ 塔内の134段の階段を昇りますと、展望台から街が一望できます。
- ▶ 10分間のビデオ「リビング・カセドラル」をご堪能下さい。音楽は大聖堂聖歌隊によるものです。
- ▶ 美しいイラスト入りの小冊子「リビング・カセドラル」をどうぞお買い求め下さい。
- ▶ 大聖堂の真鍮記念牌の拓本をとることができます。
- ▶ 「カセドラル・カフェ」では、お食事や軽食が楽しめます。
- ▶ 正面入口のスタンドには無料パンフレットをご用意しております。
- ▶ 大聖堂の記念品、カード、小冊子など、いろいろ取り揃えてあります。

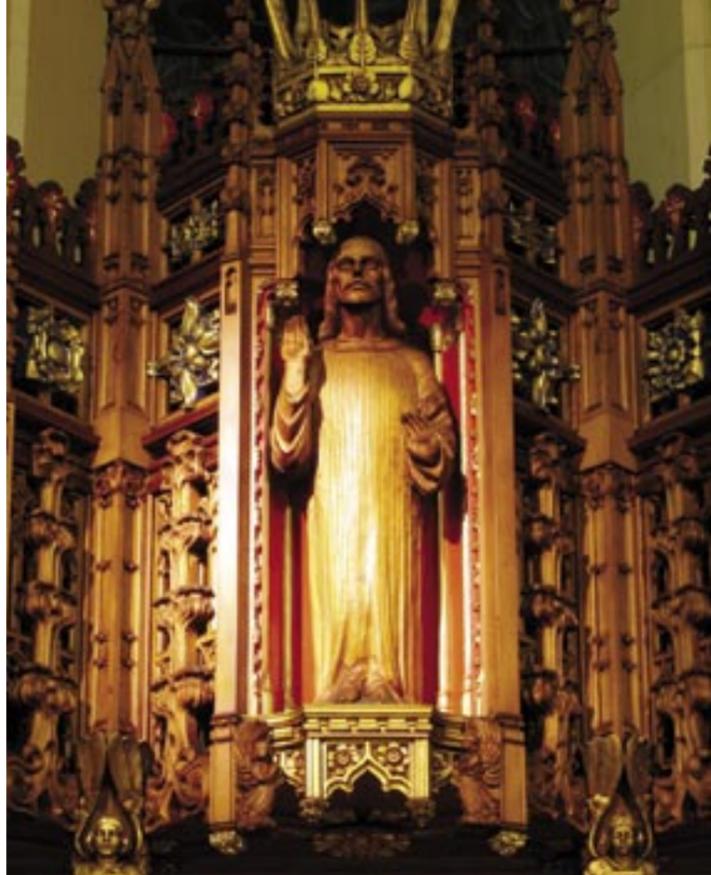
クライストチャーチ大聖堂は、計画と建築に23年もの歳月をかけ、1881年によく公開されました。

礎石が敷かれたのは1864年。イングランドからの最初の入植者の船が着いて間もない時でした。設計はイングランドの著名なゴシック建築家ジョージ・ギルバート・スコットによるものですが、完成までを監督したのは、中心地の建築の多くを手掛けた地元の建築家ベンジャミン・マウントフォートで、大聖堂にも彼の影響がうかがえます。総額64,000ポンドをかけて、最終的に完成したのは1904年のことです。大聖堂は奥行き60m、屋根までの高さ30mで、1000名を収容します。隣接するビジターセンターは1995年にオープンしました。

建物の名前は英国のオックスフォード大学クライストチャーチ校に由来し、その様式はヨーロッパの大聖堂の伝統に則していますが、ニュージーランド独特の材料が用いられました。天井に使われた木材のマタイとトタラはバンクス半島、石はクライストチャーチ近郊の採石場からのものです。

壁に掛けられた芸術作品は、アオテアロア（ニュージーランドを指すマオリ語）、ニュージーランド、そしてポリネシアにおいて英国教会を形成する、マオリ族、白人、そして、その他のポリネシア人のそれぞれに異なる文化を表現しています。

主祭壇と説教壇の周りの彫刻は1814年以降の教会の歴史を表したものです。記念礼拝堂には、戦争と平和の時代を通じたカンタベリー地方の開拓の歴史が物語られ、窓、壁にはめ込まれた記念銘板は、その指導者たちを讃えています。翼廊の旗と色は、クライストチャーチの南極探検、軍事遠征、青少年団体との繋がりを示してい



ます。また、ニュージーランドの様々な鳥や花や草木が彫刻とステンドグラスに描かれています。

訪問者は年間50万人以上にのぼり、ニュージーランドで訪問者が最も多い大聖堂です。1年中、毎日公開されています。

聖歌隊の伴奏をしている現在のパイプオルガンは1927年から使われています。3938のパイプと64の音栓を持ち、ロマン主義の楽器として有名です。

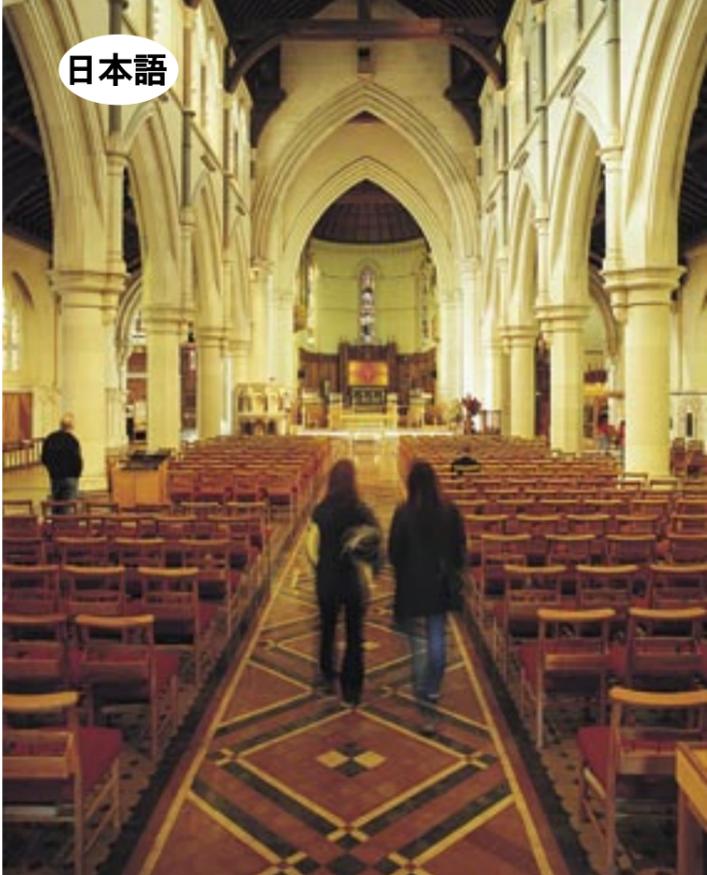
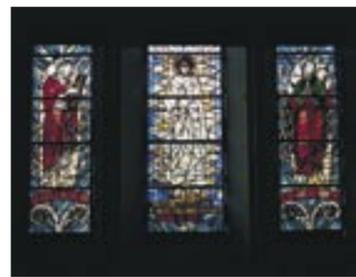
この大聖堂は13の鐘を持ち、すばらしい鐘の響きを聞くことができる世界最南端の場所です。これらの鐘は66mの塔の中に、逆さまに（口が上に向いて）吊るされており、大きな礼拝や市の行事を知らせるために定期的に鳴らされています。

大聖堂は英国教会教区を中心であり、主教を長としています。その座席である主教座は内陣に見ることができます。これは市の教会であり、すべての人々に開かれています。プログラムは様々な信仰を持った人々によって支えられ、執事の指導の下、少人数のスタッフと350名のボランティアによって運営されています。

ここで起こるすべての事は、イエス・キリストの物語によるもので、それらはパンフレット、窓、壁画、彫刻などに分かりやすく描かれています。ニュージーランド祈祷書（ヘ・カラキア・ミヒナレ・オ・アオテアロア）を用いた毎日の礼拝は英語とマオリ語で語られ、また、歌われています。

クライストチャーチ大聖堂では毎週12回の礼拝式を行っています。その内5回は国際的にも評価を受けている大聖堂聖歌隊が参加します。国内で最も長い歴史を持つ、唯一のプロフェッショナルな教会聖歌隊です。ここで訓練を受け、近接のカセドラル・グラマースクールに通う24人の少年合唱団員もいます。礼拝式は聖体拝領や晩祷から、ジャズ音楽、創造の祝い、ケルト族の精神性、音と映像、植物、水、石、火、ロウソク、そして、静寂を用いたものまで、幅広いものとなっています。

また、大聖堂は、毎年恒例の動物を使ったクリスマス礼拝や市民による南極探検家記念式典、イギリス連邦記念日、アンザック・デー、キッズ・フェスタ、フローラル・フェスティバル、シー・フェアー、教会に行かない人向けの「普段とは違う日曜日」など、子供たちのための幅広いイベントを開催しています。



日本語



ChristChurch Cathedral 
New Zealand

PO Box 855 Christchurch
Tel: 03 366 0046 Fax: 03 366 8452
Email: cathedral1@xtra.co.nz
Website: www.christchurchcathedral.co.nz

裏表紙: 西側入口の上部に位置する、4,000以上ものガラスピースを使い、31のセクションから成る幅9mの**薔薇の窓**。マウントフォートがデザインし、天使と楽器に囲まれた神の小羊のイメージが中心となっています。

上: **説教壇のパネル**は1856年にリトルトン港に到着したハーパー一家を迎えるセルウィン主教 / **縦挽き大のこぎり**で挽かれ、バリーズ湾から海路で持ち込まれた**天井の木材** / 大聖堂のビデオプログラムより、W.A.サットンの作品、普遍的な主題である**キリストの顔** / タバ布を貼った柱と、中央にカバの器を配置したカヌーをかたどった祭壇がある、新しい**太平洋礼拝堂**。



上: トックトック・パネル / 奉納された**ロウソク立て** / モーセ、変貌のキリスト、エリヤが中央に描かれている**スコット記念窓**。カンタベリー地方の芸術家ウィリアム・サットンによる**デザイン** / **蠟画法の壁タイル** / 祭壇上の**クジャク** (表紙) は大聖堂にある100以上の**鳥と動物の彫刻の一つ** / **自生の樹木、シダ、花を描いた窓**。

その他のイメージ: 1881年以来、大聖堂聖歌隊はここで平日と日曜の伝統的なレパートリーを歌ってきました。一方で、ジャズを含む様々なジャンルの音楽を用いた礼拝も定期的に行っています。

例年のアドヴェント・キャロル・サービスなどのロウソクを灯しての合唱のひとつときや、聖歌隊とオーケストラの特別コンサートなどが開催されています。活力ある音楽で知られるクライストチャーチにおいて、大聖堂はアート・パフォーマンスを楽しむ人気スポットとなっています。

ChristChurch Cathedral 
New Zealand

